

○夜眠(よい)も寝(ね)なくに

作詞：大伴旅人/田氏真神/板氏安麿/門部石足/豊後守大伴大夫

作曲：上野紘史 編曲：上野紘史

演奏：はるひのwithDODOWAKA

令和典拠となった「万葉集」梅の宴から主催者大伴旅人が詠った和歌を歌頭に5首を選んだ「EDM」

・「わが園(その)に梅の花散るひさかたの天(あめ)より雪の流れ来るかも」(大伴旅人=おおとものたびと)

▷万葉集巻5-822

(わがそのにうめのはなちるひさかたのあめよりゆきのながれくるかも)

現代訳：わが家の庭に梅の花が散る。はるか遠い天より雪が流れて来るよ。

意味：太宰師の大伴旅人の歌。梅の花の散る様子を天から雪が流れ来る様に譬えています。梅や桜などの花の散る様を雪に譬えるというのはその後の歌の世界では常套となってしまいましたが、その原型がこの旅人の歌に見て取れるのも興味深いです。

・「春の野に霧(き)り立ち渡り降る雪と人の見るまで梅の花散る」(田氏真神=でんしのまかみ)

▷万葉集巻5-893

(はるののに きりたちわたり ふるゆきと ひとのみるまで うめのはなちる)

現代訳：春の野に一面に立ち渡って降る雪かと人が思うほどに梅の花が散っているなあ

意味：「見るまで」ここではおもう/判断すると訳す

・「春なれば宜(うべ)も咲きたる梅の花君を思ふと夜眠(よい)も寝(ね)なくに」(板氏安麿=はんしやすまる)

▷万葉集巻5-831

(はるなれば うべもさきたる うめのはな きみをおもふと よいもねなくに)

現代訳：春になってなるほどよく咲いた梅の花よ。君を思うと夜も眠れないよ。

意味：梅の花への呼びかけが素敵な一首です。「君」は梅の花を擬人化したものですがどことなく想い人への恋歌のようにも読めます。

「うべも」当然/なるほど

・「鶯(うぐいす)の、待ちかてにせし、梅が花、散らずありこそ、思ふ子がため」(門部石足=かどべのいはたり)

▷万葉集巻5-845

(うぐひすの まちかてにせし うめがはな ちらずありこそ おもふこがため)

現代訳：うぐいすが待ちかねていた梅の花よ、散らないでほしい。愛する人のために

意味：「鶯が開花を待ちわびていた梅の花は散らずにあって欲しいものだ。恋い慕う子らのために」と、梅の花への散らないでほしいとの願いを詠った一首。結句の「(梅を)恋い慕う子ら」は、上の句の鶯のことであると同時に、おそらくは愛する人やこの宴の一座の人々のことも含んでの表現なの

でしょう。

解説：うぐいすはスズメウグイス科の鳥。早春に鳴くことから「春告鳥=はるつげどり」とも言われる。

・「世の中は恋繁（しげ）しゑやかくしあらば梅の花にも成らましものを」（豊後守大伴大夫=とよのみちのしりのかみおほとものだいぶ）

▷万葉集巻5-819

(よのなかは こいしげしえや かくしあらば うめのはなにも ならましものを)

現代語訳：世の中にはなんと恋患うことが多いことよ。こんなことならば、いっそ梅の花になりたいものです

意味：恋に思い悩んで苦しむぐらいなら美しく咲いて散る目の前の梅の花になりたいものだとの思いを詠った一首ですね。つまりは目の前の梅の花がそれほどまでに美しく咲いていると誉め称えているわけです。

「夜眠も寝なくに」

1.わが園（その）に

梅の花散るひさかたの

天（あめ）より雪の流れ来るかも

春の野に霧（き）り立ち渡り降る

雪と人の見るまで梅の花散る

※(Just blooming baby Ah-)

君を思ふと夜眠（よい）も寝（ね）なくに

春なれば宜（うべ）も咲きたる

梅の花

君を思ふと夜眠（よい）も

寝（ね）なくに

夜眠（よい）も

寝（ね）なくに

2.鶯(うぐいす)の

待ちかてにせし 梅が花

散らずありこそ、思ふ子がため

世の中は 恋繁（しげ）しゑや

かくしあらば

梅の花にも

成らましものを

※繰り返し

